

研究課題（テーマ）	実習指導者・教員連絡会が実習指導者の臨地実習における指導意欲に及ぼす効果		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科成人看護学急性期講座	助教	竹口 将志
分担者	看護学科成人看護学慢性期講座	講師	濱野 初恵
	看護学科精神看護学講座	講師	遠田 大輔
	看護学科基礎看護学講座	准教授	三善 郁代
研究結果の概要			
【背景・目的】 富山県内の多様な医療保険福祉施設を実習先とする看護学部において、実習指導者との連携・協働体制は、確立している途上にある。また、多くの実習指導者は、看護学士課程の学生を初めて実習指導する経験に対して困難が報告されている。看護学実習ガイドライン（文部科学省、2020）に基づき、実習指導者と大学教員の合同連絡会（以下、研修会）を実施し、実習指導者の指導意欲に与える効果を検証した。 【研究方法】 研修に参加し、同意を得た実習指導者を対象に、自記式質問紙調査を実施した。指導意欲の尺度として現在の実習指導に向けた意欲（10項目）と将来的な実習指導に向けた意欲（5項目）について5件法を用い評価した。研修前後の調査では37名、研修前・研修後・実習後の縦断調査では28名から回答を得た。 【結果・考察】 研修会により、指導意欲全体および現在の実習指導に向ける意欲が有意に上昇し、実習終了後もその効果が持続した。しかし、将来的な実習指導に向ける意欲には有意差が認められなかった。これらの結果により、研修会が現状の指導意欲の向上には効果的であるが、長期的な視野での意欲向上には研修内容を再検討する必要があると示唆された。 以上、研修前後の結果については、日本看護研究学会第51回学術集会で発表を行った。また、研修前・研修後・実習後の縦断研究の結果については、第3回看護ケアサイエンス学会学術集会で発表を行った。本研究結果は、現在論文投稿に向けた執筆段階にある。			
今後の展開			
本研究の結果、実習指導者の背景や経験年数、所属施設の違いにより、研修効果を一律に期待することは困難であることが示された。この結果を踏まえて、今後は各実習指導者のニーズや特性に合わせた研修プログラムの作成を検討していきたいと考えている。			